

外出自粛の影響もあるのか、夏休みだというのに、自然園にあまり子供たちの姿が見られません。

topics-1 ニホンカナヘビ

ニホンカナヘビは園内で身近に見られるハ虫類のひとつです。

ヘビのように細長いけれど可愛いので

かなへび

愛蛇と呼ばれるようになったと言われています。

3月頃から姿を見せはじめ、園内では特に、湿生池木道や草地などあちこちでよく見かけます。

主に昆虫やクモなどを食べて暮らし7年ほど生きます。



さて、そんなカナヘビですが、夏休みに入って間もない頃、変わった個体が届けられました。



尾が二股になっています。

突然変異かと調べたところ、自切（敵に捕まった時に、逃れるために自分で切る最終手段）の際に切り損なって残り、新しい尾が出てきてこうなったもので、時々そんな例があるようです。珍しいので少しの間、展示しました。



topics-2 カニムシ

冬の昆虫探しは、樹名板めぐりが定番です。小さい甲虫やクモ、時にはヤモリが暖をとって越冬していることがあります。



体長2、3ミリほどなので、肉眼でギリギリわかる程度です。

事務所に連れて帰り、白い紙の上でハッキリ撮ってみました。

きょうかくるい
カニムシとは鋏角類に属し、主に土壌の中に暮らし、ほかに海岸、樹上性のものなど60種以上いますが、これは“トゲヤドリカニムシ”という、樹皮の間などで暮らすものでした。

夏は、わざわざ探さなくとも昆虫はたくさん見つかるのでめくることもなかったのですが、ある日めくってみたら、何か動くものがありました。

カニムシの仲間です。



* 8月1日の定例自然観察会 及び 7日の夜の観察会は緊急事態宣言が発出されたことにより中止となりました

今後の行事予定

9月5日定例自然観察会 「草むらの昆虫と秋の花」>

9月5日(日)の定例自然観察会「草むらの昆虫と秋の花」は

緊急事態宣言が延長されるため、中止となりました。

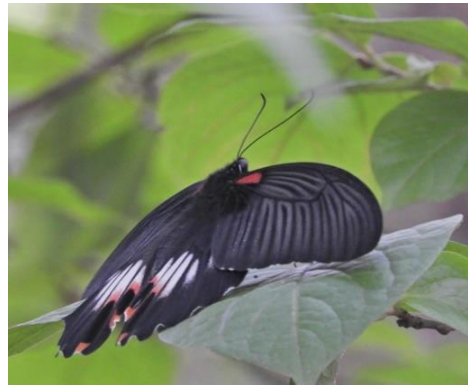
忠生公園自然観察センター 電話:042-792-1326

忠生公園フィールドワーク記録

調査期間 7月14日～8月11日

期間中に観察した動植物（園芸・外来種含む） 下線付は初記録

昆虫 スジグロシロチョウ コミスジ イチモンジチョウ クロヒカゲ サトキマダラヒカゲ
 コジャノメ アカボシゴマダラ クロアゲハ ナガサキアゲハ アゲハ ダイモウセセリ ルリシジミ
 ウラギンシジミ ムラサキシジミ モモノゴマダラノメイガ コフキコガネ クロコガネ アオドウガネ
 キマワリ カブトムシ ヤマトタマムシ セモンジンガサハムシ スグリゾウムシ キボシカミキリ
 クワカミキリ トウキョウヒメハンミョウ ハグロトンボ ショウジョウトンボ シオカラトンボ
 マユタテアカネ コノシメトンボ オニヤンマ ギンヤンマ オナガサナエ ヒゲナガカメムシ
 オオツノカメムシ ハサミツノカメムシ ウシカメムシ メダカナガカメムシ ベッコウハゴロモ
 アオバハゴロモ オオアメンボ アブラゼミ ミンミンゼミ ニイニイゼミ ツクツクボウシ ヒグラシ
 クマゼミ アカハネナガウンカ ミドリゲンバイウンカ メミズムシ イボバツタ コバネイナゴ
 クルマバツタモドキ キンパラナガハシカ シオヤアブ クロバネツリアブ ミカドガガンボほか



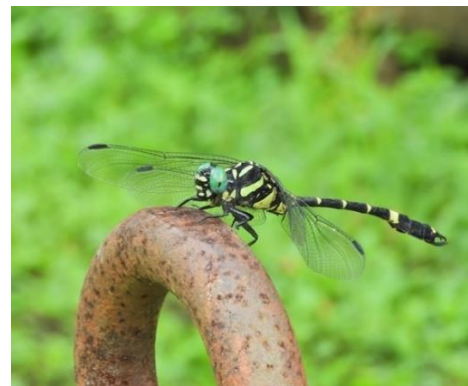
ナガサキアゲハ



クワカミキリ



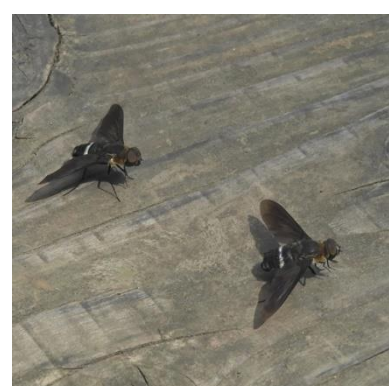
アカハネナガウンカ



オナガサナエ



オオツノカメムシ



クロバネツリアブ

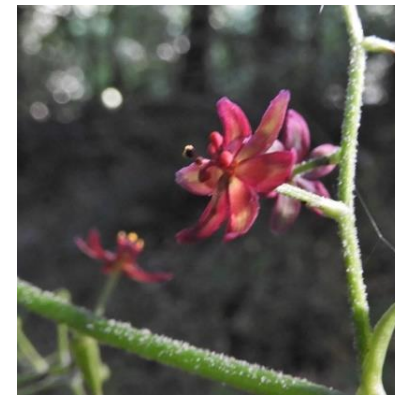
ハ虫類 両生類 クモなど

ニホンカナヘビ ニホンアマガエル シュレーゲルアオガエル
 サツマノミダマシ ハラビロミドリオニグモ オナガグモ ワカバグモほか

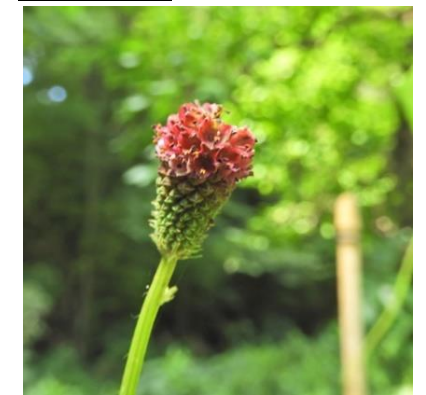
野草 カントウヨメナ ゲンノショウコ ミズタマソウ ガンクビソウ キツネノマゴ
 ダイコンソウ ヤマユリ シュロソウ ボタンヅル ヤブラン アキノタムラソウ セリ
 ノササゲ ヌスビトハギ フジカンゾウ ヤブミョウガ カラスウリ コケオトギリ
 オトギリソウ イヌトウバナ キツネノカミソリ ナツズイセン ワレモコウ コバノカモメヅルほか



ミズタマソウ



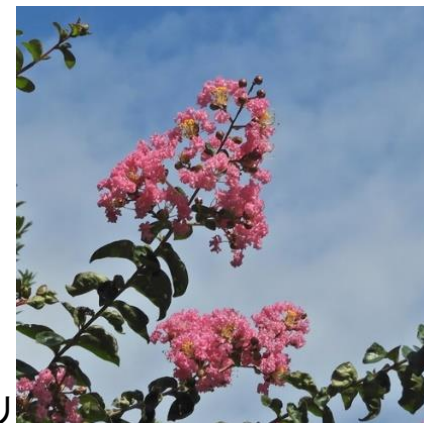
シュロソウ



ワレモコウ

樹木

クサギ エンジュ サルスベリ マンリョウ タマアジサイほか



サルスベリ



マンリョウ

野鳥（声のみの記録も含む）

メジロ ヒヨドリ キセキレイ カワセミ シジュウカラ ヤマガラ ウグイス エナガ キジバト コゲラ
 アオゲラ ハシブトガラス ハシボソガラス ムクドリ
 （以降外来種） ガビチョウ



コゲラ



ガビチョウ